

【終了報告書】

研修先大学/ 活動先機関名	シドニー大学	参加 プログラム名	オーストラリア シドニープログラム	国名	オーストラリア
氏名		学籍番号		学科	総合政策学科
参加時の 学年	1年	参加費用 (日本円での概算)	774,270円		
参加日程	2026年 2月 7日 ~	2026年 2月 28日 (3 週間)		記入年月日	2026年 3月 7日

① 参加前について

研修・活動に参加する目標は何でしたか。

研修目的は主に2点ある。

1点目は、英語を習得するために必要な4技能(Reading, Listening, Writing, Speaking)をバランス良く身につけ、特にSpeakingに関して実践的な英会話力を向上させたいと思ったからだ。普段の大学のCommunicationやDiscussionの授業で発言を積極的に求められる場面で自分が伝えたいことが思うように伝えられなかったり、英語で伝えたいことが十分に伝えられなかった結果、英語で話すことにに対して自信を失くしたり、もどかしさを感じるようになった。そこで、実際に英語圏に行き、英語しか話せない環境に身を置いて英語を多く話すことで自身の英会話力を向上させられるのではないかと考えた。

2点目は、異文化に対する理解や国際的な視点から物事を考える力を身につけたいと思ったからだ。多文化・多文化が共存しているオーストラリアで自分が持っている固定された価値観や考え方を押し付けるのではなく、相手を持っている価値観や考え方を尊重かつ受容することで自分の視野を広げることができるのではないかと考えた。

② プログラムについて

研修・活動の感想

研修校のシドニー大学(Centre for English Training)では、英語を習得するために必要な4技能(Reading, Listening, Writing, Speaking)に加え、発音や文法、その他知っておくと良い知識をバランス良く身につけられるカリキュラムが組まれていて、どれも毎日新しい発見と学びの連続、そして今後の生活で活用できることが多くあった。特に、グループでのプレゼンテーションでは、最近パワーポイントを用いる機会が多い中、あえて紙のポスターを用いることでポスターの作り方やレイアウトの工夫に関して伝える相手を意識し、試行錯誤を重ねながら作成することができた。そして何よりも研修校の先生は授業に対しての姿勢や態度を重視して評価してくださり、常に失敗を恐れずに発言できる環境で過ごすことができた。

また、日本で若者が主に使う言葉があるのと同様、オーストラリアでも若者が主に使うカジュアルな砕けた言葉(Aussie Slang)を学ぶことができた。Slangを見た時に最初はSlangになる前の元の英単語からどのように変化したのかがよく分からなかったが、学んでいくうちに徐々に分かるようになった。Slangになる前の元の英単語とSlang化した英単語を比較してSlang化した英単語のスペルの規則性を見つけることができ、有意義な学びを得ることができた。

今回の語学研修で得た様々な学びを次年度以降の大学の英語の授業で大いに活用していきたいと思った。

研修・活動以外の部分についての感想

ホームステイでの生活や様々な観光地に行くことを通じて様々な文化が共生していることが分かった。私のホストファミリーはインドネシアにルーツを持つ家庭で、とある平日の夕方に中国の旧正月を祝いイベントに連れて行ってくれた。日本では中国と同様にアジア地域に位置しているものの、旧正月を祝い習慣がないため、旧正月への馴染みはとて薄い。中国の旧正月を祝うこともそれらに関連するイベントに行くことも初めてだった私は、最初、見たことのない光景に驚きのあまり、しばらく沈黙が続いてしまった。さらに、中国の旧正月をオーストラリア地域のオーストラリアで祝うことに関しても、やや違和感があった。しかし、イベントに集まっている人々の様子を見ると、そこには彼らの持つそれぞれの人種を越えて旧正月を祝い、楽しんでいる様子が目に見えて取れた。人種に関係なく、他の地域の文化を受け入れて認め合うことの大切さを強く実感することができた。多文化共生を実現するには、まずは様々な国に関する文化を知ること、そして相手を持つ文化を「自国にはそのような文化はないから」と言って否定するのではなく、尊重することが重要であると分かった。

現地学生との交流について教えてください。 ※交流がなかった場合は、空欄で構いません。

現地ではシドニー大学に通っている学生と週に1回あるワークショップの時間に交流することができた。オーストラリアの有名な観光地や生息している動物の種類などオーストラリアに関する様々なトピックについてコミュニケーションを取ることができた。ワークショップは現地校の授業と同様、少人数で実施されたため、英語を話しやすい環境だった。時には、現地学生から指名されることもあり、自分の意見を上手に伝えられなかったこともあったが、最後まで自分が言っていることを聞いてくれて、とても優しく接してくれた。

また、研修校のシドニー大学には、「Wasabiji」という日本の文化に興味や関心があるオーストラリアの学生と日本の留学生が交流できるサークルがあり、新入生歓迎会に足を運ぶことができた。サークルに所属している現地学生の中には、日本語を流暢に話せる学生もいて、高い日本語力に驚くと同時に、知的好奇心や学ぶことに対する意識が高い学生が多いのだと実感した。

③ 参加の成果について

今回の参加を経て、ご自身の中での学習面・精神面の成果があれば教えてください。

今回の語学研修で、学習面と精神面の両方において成果を得ることができたと思っている。

学習面では、英文法や英単語を自分で日本語で整理してから覚えるのではなく、先生の英語の説明を聞いてその場で覚えることで、授業内で理解するスピードが上がったと感じた。最初は、英語を英語のまま理解することがおぼつかない状態だったが、2週目以降になると、先生の説明などを英語のまま理解することが徐々に増えていった。また、この辺りからスピーキングの力が伸びてきたことを実感するようになった。

精神面では、渡豪前と比較して積極的に自信を持って英語を話せるようになった。渡豪して最初の頃は、「相手に自分が言いたいことを上手に伝えられなかったらどうすればいいのか」など英語で相手とコミュニケーションを取ることに躊躇うことが多かった。しかし、相手とコミュニケーションを取っていくうちに、多少文法の破綻や発音のミスがあっても、自分が伝えたいことが相手に伝わっているのを徐々に実感することができた。「文法や発音ミスをしうだから話すのが怖い」ではなく、「多少ミスしても、相手に伝えたいことを伝える気持ちを強く持つ」ことに自然と移っていたのは、自分にとって1番の成長だと感じた。この学びを、日本に帰国してからも止めることなく、今後大学の英語の授業を中心に積極的に活かしていきたい。

④ その他

その他、気づいたことや今後参加する方へのメッセージがあれば記入してください。

【気づいたこと】

私は、今回の語学研修が初海外ではありませんでしたが、海外での長期間の滞在は初めてかつスピーキングに自信がなかったため、渡豪前は現地で行けるか不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に行ってみると、今の自分の英語の学力でも海外で生活する力があることに気づきました。ですが、ホストファミリーとの会話になると、自分が言いたいことや表現したいことが十分に伝えられず、「渡豪前にもう少し英単語やよく使う会話表現が身につけておけばもっと会話の幅が広がったのに、」と思ったことが何度もありました。このことから、英語は話せるだけでは十分ではなく、英語で「何を」話すが重要だと気づきました。英語を使って相手と高度な内容を話すためには、日々の英語の自主学習や大学の授業での積極性が語学研修中にどれだけ英会話ができるかを左右するのだと再認識しました。また、普段の大学の英語の授業以外に自主的に英語に触れているかが語学研修を充実させるための肝心な要素だということが分かりました。毎日、自主的に英語学習を続けることの重要性を痛感しました。

【今後、大学主催の語学研修の参加を検討している方へのメッセージ】

日本以外の国で一定の期間生活することに対して不安な気持ちを持っている方が多くいらっしゃると思います。いざ海外に行ってみると、最初の1週間は異なる環境に慣れるのに時間がかかるとは思いますが、慣れてくると徐々に現地での生活を心から楽しめるようになり、1日1日の時間を惜しむようになるかもしれません。「今は海外が怖いから行かない」と思っている方も、社会人になってから海外にまたまった期間行くことは非常に難しいです。海外に行って異文化や生きた英語を学びたいという気持ちが少しでもあるなら、躊躇なくチャレンジとすべきだと思います。現地での体験はお金に替えることのできない貴重なものです。(費用面は保護者と要相談、できれば時間のある低学年のうちに行くのが望ましいと思います)

また、自身の英語力に不安のある方でも、まずは思い切って積極的に相手に話しかけてみましょう。多少文法や発音が不正確でも、自分が伝えようとしていることをしっかり聞き、理解しようとしてくれる人がほとんどです。もし、相手に上手に伝えられなかったとしても、そこから学べることはたくさんあります。英語は話せば話すほど、自然と口から出てくるようになります。どれだけ失敗を恐れず、自分から積極的に話しかけられるかが重要だと思います。英語で話すことはもちろん、現地ではか学べない文化や体験を貪欲に学んでください。

国際センターのHPに掲載してもよい写真があれば添付してください。キャプションもつけてください。



↑ 登校初日のシドニー大学の様子(WELCOMEの看板と一緒に)



↑ 中国の旧正月を祝うイベントに行った時の様子